

- ② 県本部代表に聞く
東京オリンピック・パラリンピックで
福島県の安全、安心を世界へ発信!
「小さな親切」運動福島県本部 代表 北村清士
(公社)「小さな親切」運動本部 理事 梅森 徹
- ⑥ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」本格スタート!
- ⑧ 名物校長に聞く「“情熱”教育論」
青森山田高等学校 校長 花田 惇
- ⑨ 酔いどれ脳科学
「小さな親切」で認知症を予防?!
- ⑩ 第9回社員総会 報告
- ⑪ 就任あいさつ: 理事 保田 博/中嶋浩一
- ⑫ 『おはなしメリーゴーランド』で楽しく心を育てよう!
- ⑬ コラム「これってどうなの?」/のんちゃんのおすすめ紹介
- ⑭ Information & HIROBA

恒さんが行く!



凛然と輝く夫妻の偉業

代表
鈴木恒夫

人は誰しも、多かれ少なかれ「生涯の友」と出会う。恵まれる、といった方が良いかもしれない。最近のわが国の社会現象を見聞きするたび、孤独の日々に自らを追い込んだり、あえてその道を選んだりする人のあり様に、様々な思いが頭をよぎるが、人は一人では生きてはゆけないことだけは、はっきりしているはずだ。

大森和夫君と奥方の弘子さん。このご夫妻を私は今回、この欄で「生涯の友」としてご紹介させていただく。お二人のことは日本の国内より、むしろアジアを中心とする外国の方々の方が良くご存知かもしれない。その訳はのちほどたっぷり。

和夫君と、あえて君づけでご主人の方を呼ばせていただくのは、私と彼は早稲田大学第一政経学部の一学生時代のクラスメートだからだ。1959(昭和34)年の入学の時から、彼とはほんとうに良く気の合う友人だった。学科は別だったが、新聞記者志望ということが私たちの気持ちを結びつけていたのかもしれない。卒業とともに私は「毎日」、彼は「朝日」に。地方で修行を積んだあと、時期は私の方が早かったが、やがて二人とも東京に戻って政治記者となった。

私は入社15年目に、当時の新自由クラブ代表・河野洋平氏とご縁があって政治の世界に身を移したが、和夫君も25年目の平成元年に「朝日」を退社。ご夫妻が今年5月に出版した「世界の日本語学習者と歩んだ平成の30年」の中で、人生の転機をこう

ふり返っている。(文章に省略など修正あり)

「記者だった1988(昭和63)年8月、もし、当時、東京都目黒区にあった日本国際教育協力会・駒場留学生会館を訪問しなかったら、私たち夫婦の“世界の日本語学習者との30年交流”はなかった。留学生の心の内を聞くと、日本人の友達ができない、日本のことをもっと知りたいのに難しいなどと、口々に訴えた。そこで、自分は一人でも多く日本を好きになって祖国へ帰ってもらいたい。そのためには一人でも多く日本のファンになってほしい、と考えた。

まさに、大決断。半年後にご夫妻は季刊誌『日本』を創刊して、留学生たちへの無料配布を開始。これを手始めに、ご夫妻は自宅の四畳半の部屋を仕事場にして「日本語作文コンクール」を23回主催し、応募総数3万7,836編を集め、留学生たちへ日本語教材を約79万冊寄贈するなど、お二人の「国際交流研究所」が中国や韓国、タイなどのアジア諸国をはじめ国際社会に残した宝物の重みは測り知れない。それはまた、私たち日本にとっても大きな宝物だ。共著の発刊に寄せて、私はお二人への思いを、こう書かせていただいた。

「凛然と輝くご夫妻の一生の偉業!! 私の胸にはどうしてもこれ以上の言葉が浮かばない。日本語作文を通して“日本の美風”を感じられたであろう方々と共に、ご夫妻に心から“ありがとうございます”と申し上げさせていただきます」。



表紙写真

- ①: 福島県本部北村代表(左)と運動本部梅森理事(右)
- ②: セタ飾り“ありがとう”(鹿児島県 真砂保育園)
- ③: ファーム富田のラベンダー畑(北海道中富良野町)
- ④: 白くまは大人気(北海道 旭山動物園)
- ⑤: クリーン大作戦に出発!(青森山田高等学校の生徒さん)
- ⑥: 「おりづるタワー」からみた広島市内
- ⑦: 「高長まるしげ」の中華そば(青森県青森市)

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2019年8月1日発行 通巻515号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP 有限会社リトルフット

イラスト P13: 安彦麻理絵